

疾風の如く時をかけた女性



人見 絹江 (ひとみ きぬえ)
1907—1931
陸上競技選手
オリンピック選手

岡山県生まれ。1920(大正9)年、岡山高等女学校に進みテニスをしてしたが、請われて、岡山県女子体育大会に出場し、走り幅跳びで優勝。そのことが、陸上競技へ転向する動機となり、東京にある二階堂体操塾(現・日本女子体育大学)に1924(大正13)年に入学した。その頃世の中は大正デモクラシーが盛んで、すでに平塚らいてうらの女性解放運動もスタートしていた。しかし一方では「男尊女卑」「良妻賢母」「高等女学校を出て働くことはその家の恥」その上「女性が太ももを出して運動をするなどもつてのほか」という時代だった。

その時期、絹枝は最初の著書となる『最新女子陸上競技法』を執筆。女子のために書かれたこの種の技術書が少ないこと、あつても男性が書いたものは研究と体験がないため、女子を弱く見て指導者や競技者に満足を与えるものになつていないとして、自らの経験をもとに執筆をしたと述べている。この書の中に若い後輩に対する力強い激励として、「女子選手はとかく世間の噂になるが小さなことにクヨクヨしないで、自分の信じた道をまっすぐに進んで行きなさい」と述べている個所がある。それはその後、絹枝自身のアスリートとして、また、大阪毎日新聞社運動部記者として働く女性としての生き方にも、貫かれた姿勢といえる。絹枝は断髪・洋装という外見だけではなく、生き方の面でも困難を乗り越えて、新しい生き方を実践した人である。

1928(昭和3)年、第9回オリンピックアムステルダム大会で、日本の参加選手43名中、はじめて唯一の女子選手として出場、初参加の800m競争で二位に入る。

また絹枝は、新聞社に勤めながら全国各地の女学校を回って講習・実地指導を行い、後継者育成の努力を続けた。外国の選手が20歳を超え、結婚し出産しても活躍している例を挙げ、女子スポーツ発展への啓発も行った。絹枝の影響を受けて、陸上競技に限らずいろいろな分野で活動する女性が増えたという。

しかし、無理がたたつて病に倒れ、24歳の短い生涯を終えた。まさに疾風の如く時をかけた女性であった。

これまで男性主流と考えられてきたサッカーや野球などのスポーツにおいても、今では多くの女性アスリートが活躍できるようになりました。

女性のスポーツの歴史を振り返ると、スポーツにおける男女の差は小さくなってきたように見えます。しかし、依然として解決すべき課題もたくさんあります。例えば、子育て期にある女性アスリートが抱える、競技生活と家庭生活を両立する難しさや、コーチやスポーツ組織の役員に女性の占める割合が低く、女性リーダーとなる女性コーチが増えていないなどです。また、子育て期にある女性が、子どもを預けてスポーツをする場合、父親の場合とは違って周囲のまなざしが厳しいということとは？

これらは、女性の能力や役割に対する固定的な見方が、いまだに残っていることも影響しているのではないのでしょうか。

後に続く若い女性たちのためにも、少しでも良い環境の中でスポーツに取り組めるようにしていきたいものです。

（野口）

＊参考文献
『人見絹江 生誕100年 記念誌』
日本女子体育大学

『二階堂を巣立った娘たち―戦前オリンピック選手編―』
勝場勝子・村山茂代著 不昧堂出版

＊写真…日本女子体育大学提供

「削られた部分について、日本の女性たちはいまも闘っている」。ベアテさんは、のちにごつ言っています。

女性が生きやすい社会にするには、これからも努力が必要のようです。

（福田）



ベアテと語る「女性の幸福」と憲法
語る人：ベアテ・シロタ・ゴードン
聞く人：村山アツ子
構成：高見澤たか子
発行：晶文社

2013(第18回)アイレックまつり

男女共同参画センター(アイレック)は「女性も男性も性別にかかわらず個人として尊重され、平等に暮らせるまち」をめざして開設されました。これを記念して毎年アイレックまつりを開催しています。このまつりは、公募で集まった市民(実行委員会)が主催し、企画・準備・当日の運営も市民が行う、アイレックならではの「市民参画」による手作りのイベントです。

講演

だれもが幸せに 長生きするために

講師 樋口 恵子さん
(東京家政大学名誉教授)



「変化に強くなろう」と、樋口さんは語ります。それは、自分を変えなければいけない、ということではありません。変わりゆく社会や環境を前に右往左往するのではなく、その「変化を見据えて対応する」ことが大切なのだということです。

昭和20年には男子が23・9歳、女子が37・5歳だった平均寿命は、戦後の復興、経済成長に伴い、飛躍的に伸びました。現在60歳の人の半数が、90歳まで生きるといわれています。病気や戦争で、年をとるまで生きられない人がほとんどだった時代を経て、「長寿は平和と豊かさの所産」であると樋口さんは考えます。

昔は、定年後、数年するうちに配偶者に先立たれてしまうということは、よくあることでした。それが現代では、

60歳の人は夫婦の期間があと30年間続くこととなります。定年後の夫婦が、ともに長く暮らす時代の始まりです。

夫婦は平等ですが、夫妻の間で違うところがあってもよい、と樋口さんは言っています。それぞれが志を持って、自分の得意なことをする。男女とも、定年後はそれぞれの向うべき居場所を持ち、何らかの社会貢献をすべきです。そして、社会には、何歳の人にも出番があるべきです。

長寿には、介護の問題や少子化などの側面があることも事実です。しかし長生きできるということは、この世に生まれた命が人生をまっとうすることができるということです。失敗してもやり直す時間があり、生きる喜びや生きがいを感じることもできます。

「老い」は、教育と教養の問題。世の中を知り、見据えることが大切です。そして自分の身の回りのことだけでも自分で行い、仲間と交流を持つこと。「今日行くところがあ、今日用がある人が長生きするんですよ」(声に出して読んでみてください)と、樋口さん。

秋晴れの中、会場は満員。女性も男性も、多くの方が集まりました。楽しいお話に、明日も頑張ろう、と元気になりました。ありがとうございました。

(福田)

しゃべり場

地域のみんなで 子育てを楽しもう!

母親ひとり家事、育児をするのは、当たり前だと思っていませんか。

「育児は1本足でやると、とても大変。2本足、3本足でやれば安定します」とはコーディネーターで幼稚園教諭でもある、久留島太郎さん(NPO法人ファザリング・ジャパン)の言葉。

夫婦交代で育児休業を取る予定の方の体験談や、清瀬の子育て団体「ウイズアイ」「ピッコロ」の紹介もあり、充実した内容でした。

「夫」とともに育児をし「親」そして「地域」の子育て支援団体の手助けもしましょう。

最後は、久留島さんの絵本読み聞かせライブ。軽快な調子に、おとなも子どもも大興奮の中、終了しました。

(堀)



映画・音楽会

午後の遺言状

監督は百歳を目前にした新藤兼人。杉村春子、乙羽信子という偉大な二人の俳優の最後の映画出演作品。

別荘に避暑に来た高齢の俳優（杉村春子）と管理人（乙羽信子）を中心に、そこでの出来事の数々を通して、生きの意味を問う人間ドラマ。

いろいろな場面で「石」を象徴的に使い、老いと死を重くならずユーモラスに描いています。

誰にも訪れる最後の日、それまではがむしゃらに生き抜くというメッセージが、込められているかもしれません。会場は、満員の盛況でした。

屋下がりの音楽会

アイレックまつり
初企画のミニコンサート。

井野里子さんと教え子の小学生による生のピアノ演奏で、昼食後のひと時を心地よく過ごしました。

(黒澤)



シンポジウム

麦畑をかけぬけて

女性の権利がほとんど認められていなかった明治・大正の時代から、戦時下の厳しい時代、戦後の混乱期を経て高度経済成長を遂げようとした時代。北口の農村地域、南口の医療・商業地域、それぞれ場所は違えど、懸命に生き抜いた女性たち。

2006年に清瀬市男女共同参画センター（アイレック）が「清瀬・女性のくらしを記録する会」とともに編集・発行した『麦畑をかけぬけて―聞き書き 清瀬の女たち―』が昨年、再版されました。これを記念し、携わったみなさんをお招きして、戦前・戦中・戦後まもなくのころの女性たちの生活や「うちおり（くず繭を使って女性たちが自分や家族のために織った織物）」のお話、当時の実体験など、聞き書きしたときの苦労話やエピソード、女性として共感したことなどを語っていただきました。本の中でインタビュアーに応じてくださったおひとりも参加してくださいました。

清瀬に根をおろし、どのように生きて、どのように暮らしてきたか。何が喜びであり、楽しみであり、何が悲しく苦

しかったのか。その足跡を市の中に残しておきたい。生活の実際の担い手である女性たちの生の声をすくいあげて、清瀬の女性史として1冊の本にした「清瀬・女性のくらしを記録する会」の皆さん。

「大変だったけど生きてきてよかった、今が一番幸せ」とお話をうかがった女性たちは皆さんおっしゃっていたとのこと。生き抜く力強さが心に響きました。

『麦畑をかけぬけて―聞き書き 清瀬の女たち―』は、現代に生きる私たちにも、自分らしく生きるためのヒントをくれる1冊になるのではないのでしょうか。

(小松)



麦畑をかけぬけて
―聞き書き 清瀬の女たち―
編著者：清瀬市男女共同参画センター
清瀬・女性たちのくらしを記録する会
発行：清瀬市男女共同参画センター

展示・バザー

アイレックまつり実行委員会、アイレック登録団体、サポーターが、バザー出店や、それぞれ工夫した活動紹介のパネル展示を行いました。

バザーでは各団体が、それぞれ特徴のある品物を出し、来場された方々と品物にまつわる楽しい会話をしながら、時を過ごされました。

来年はまたどのようなバザー・パネル展示になるのかと、楽しみになるような会場でした。

(野口)



バザー用品提供のお礼

78号でお願いしましたバザー用品の提供につきましては、たくさんのご協力をいただきまして、ありがとうございました。

バザーは盛況のうちに終了することができました。売上金は、アイレックまつりの運営に活用させていただきます。

清瀬市男女平等推進条例

(平成18年7月1日施行)

5つの重要な柱 (基本理念)

1. すべての人が個人として人権を尊重され、自分らしく生きることが保障されること
2. 性別役割分担にとらわれず、自己の意思と責任による多様な生き方が選択できること
3. 女性も男性も家庭生活と社会活動の両立ができるような環境をつくること
4. 女性が社会のさまざまな領域でもっと企画や活動方針を決定する場に進出すること
5. 互いに性を理解し尊重し合い、性に基づいた健康が生涯にわたり維持されること

Information

編集後記

■女性先駆者の陰には、他にも多くの才能ある女性達が日の目を見ることなく埋もれていたのだらうと思うと、悲しくなりました。(河原)

■山川菊栄。初めて知る先達。物静かで、誰の話にも耳を傾け憲法・平和を守り女性が活躍で

きる社会を希求されました。(黒澤)

■今が一番幸せ。そう思える時が来るように、大変な時も私らしく生き抜く。そんなヒントを何かつかめた気がします。(小松)

■オリンピックが二〇二〇年に東京で開催される事が決定。今回、担当した人見絹江さんを取り上げられたことも、改めて

感慨深いものがありました。強く逞しくしなやかに生きたいものだと思いました。(野口)

■普段の生活をする中で感じていた生きづらさ。100年以上も前から続く、日本女性の悩みなのだと知りました。(堀)

■偉業をなした先人たちには遠く及びませんが、まずはすぐに諦める癖を直したいと思います。(福田)

次号80号の発行は2014年4月1日です

ミス Ms. は女性を総称し、スクエアは広場や広報を意味しています。
アイレック (ILEC) とは、
Information (情報)・Learning (学習)
Exchange (交流)・Consultation (相談)
の頭文字をとった「清瀬市男女共同参画センター」の愛称です。

表紙の撮影場所 柳瀬川

発行/清瀬市男女共同参画センター
発行日/平成25(2013)年12月1日
企画・編集/清瀬市男女共同参画センター
〒204-0021 清瀬市元町1-2-11 アミュービル4階
☎042-495-7002 FAX 042-495-7008
女性広報「Ms.スクエア」編集委員会
編集委員/河原貴子/黒澤光子/小松則子
/野口純代/福田祥子/堀亜梨紗
イラスト/福田祥子

アイレックからのお知らせ

人権週間記念事業

憲法から考える男女平等 ～婚外子差別は、なぜ違憲か～

最高裁で、法律婚をしていない男女間に生まれた子(婚外子)の遺産相続分を、法律上の夫婦の子の半分とする民法の規定が、法の下での平等を定めた憲法14条に違反するとの判断がなされました。
この問題を切り口として、男女平等を共に考えてみましょう。

日時:12月8日(日)午後2時~4時
講師:植野妙美子さん(中央大学教授)
会場:男女共同参画センター会議室(アミュービル4階)

2014(第19回)アイレックまつり 実行委員募集!!

6頁と7頁の「アイレックまつり」の取材記事をご覧いただけましたか?すべてのイベントを市民(実行委員)が企画・準備し、当日の運営もしています。

次の実行委員としてあなたもアイレックまつりに参加して新しい出会いを体験しませんか。ぜひご連絡ください。

一緒に、日ごろの思いやアイデアを出し合い「カタチ」にしましょう!

申込期日:2014年1月10日(金)
男女共同参画センター(アイレックまつり実行委員会事務局)へ
電話:042-495-7002 FAX:042-495-7008

「Ms.スクエア」の音訳CDを作成しています。
ご希望の方は、男女共同参画センターへご連絡ください。

皆様の声募集中

「Ms.スクエア」は公募による市民の編集委員6人が企画編集して発行している情報誌です。79号はいかがでしたか?ご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどを、郵送・FAXでアイレックまでお寄せください。

